

第10章 環境の保全のための措置が将来判明すべき環境の状況に応じて講ずるものである場合における当該環境の状況の把握のための措置

事後調査計画の検討に当たっては、以下に示す考え方を基本とした。

- (1) 事後調査の必要性等の検討に当たっては、「予測の不確実性の程度」、「環境保全措置の効果の程度」を勘案する。
- (2) 事後調査項目、手法の選定に当たっては、事後調査の結果が環境影響評価の結果と比較できるような内容とする。
- (3) 事後調査の実施そのものに伴う環境への影響を回避又は低減するため、可能な限り環境への影響の少ない調査手法を選定するものとする。
- (4) 事後調査の結果、環境への著しい影響が確認された場合又は予測された場合には、関係機関と連携をとり、必要な措置を講ずるものとする。

なお、本準備書において具体的な位置・規模等の計画を明らかにすることが困難かつ環境への影響が大きい付帯施設（発生土置き場）に関する環境保全措置については、その効果を事後調査により確認する。

10-1 事後調査を行うこととした理由

事後調査を行うこととした理由を、表 10-1 に示す。

10-2 事後調査の項目及び手法

事後調査の項目及び手法を、表 10-1 に示す。

10-3 事後調査の結果の公表方法

調査結果の公表は、原則として事業者が行うものとするが、公表時期・方法等については調査の進捗に応じて関係機関と協議の上決定する。

10-4 調査の実施者

調査の実施者：東海旅客鉄道株式会社

表 10-1(1) 事後調査の項目

環境影響評価項目		事後調査時期及び頻度	事後調査を行うこととした理由	調査内容		
環境要素の区分	影響要因の区分			項目	手 法	
水環境	地下水の水位	(工事の実施) ・トンネルの工事 (山岳部)	工事前、工事中、工事完了後一定期間	地下水の水位の予測は地質等調査の結果を踏まえ水文地質的に行っており、予測の不確実性の程度が小さく、採用した環境保全措置についても効果に係る知見が蓄積されている。しかしながら、地下水を利用した水資源に与える影響の予測には不確実性があることから、事後調査を実施する。	トンネル計画路線周辺の主な井戸の水位	「地下水調査及び観測指針(案)」(平成5年建設省河川局)による
	地表水の流量	(工事の実施) ・トンネルの工事 (山岳部)	工事前、工事中、工事完了後一定期間		トンネル計画路線周辺の主な河川の流量	「地下水調査及び観測指針(案)」(平成5年建設省河川局)による
動物	重要な種及び注目すべき生息地	(工事の実施) ・建設機械の稼働 ・資材及び機械の運搬に用いる車両の運行 ・切土工等又は既存の工作物の除去 ・トンネルの工事 ・工事施工ヤード及び工事用道路の設置(存在及び供用) ・鉄道施設(トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、変電施設、保守基地)の存在	工事前、工事中、工事完了後の繁殖期	環境保全措置の効果に不確実性があることから、事後調査を実施する。	オオタカ、ノスリ、クマタカの工事前、工事中の生息状況及び繁殖状況の確認 オオタカ、ノスリ、クマタカの工事完了後の繁殖状況の確認	目視観察等による確認 ※専門家の助言を踏まえながら実施する。
植物	重要な種及び群落	(工事の実施) ・切土工等又は既存の工作物の除去 ・トンネルの工事 ・工事施工ヤード及び工事用道路の設置(存在及び供用) ・鉄道施設(トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、変電施設、保守基地)の存在	各種の生活史及び生育特性等に応じて設定	採用した環境保全措置にかかる効果に不確実性があることから事後調査を実施する。	移植・播種した植物の生育状況	現地調査(任意観察)による確認
生態系	地域を特徴づける生態系	(工事の実施) ・建設機械の稼働 ・資材及び機械の運搬に用いる車両の運行 ・切土工等又は既存の工作物の除去 ・トンネルの工事 ・工事施工ヤード及び工事用道路の設置(存在及び供用) ・鉄道施設(トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、変電所、保守基地)の存在	工事完了後の確認適期に年1回	クマタカ、ノスリ、アカハライモリ、トノサマガエルの環境保全措置の効果に不確実性があることから、事後調査を実施する。	アカハライモリ、トノサマガエルについて動物(両生類)の移動経路の利用状況調査	センサーカメラ等による利用状況の確認 ※専門家の助言を踏まえながら実施する。
			工事前、工事中、工事完了後の繁殖期		クマタカ、ノスリの生息状況調査	目視観察等による確認 ※専門家の助言を踏まえながら実施する。
			各種の生活史及び生息特性等に応じて設定		創出、確保した生息環境の状況調査	目視観察等による確認 ※専門家の助言を踏まえながら実施する。

表 10-1(2) 具体的な位置・規模等の計画を明らかにすることが困難な付帯施設（発生土置き場）に関する事後調査の項目

環境影響評価項目		影響要因の区分	事後調査時期及び頻度	事後調査を行うこととした理由	調査内容	
環境要素の区分					項目	手法
動物	重要な種及び注目すべき生息地	(工事の実施) ・建設機械の稼働 ・資材及び機械の運搬に用いる車両の運行 ・工事施工ヤード及び工事用道路の設置	工事中、工事完了後	保全対象種について、事業の実施による生息環境の変化の他に、環境保全措置の効果に不確実性がある場合、事後調査を実施する。	保全対象種の工事中の生息状況等の確認 保全対象種の工事完了後の生息状況等の確認	目視観察等による確認
植物	重要な種及び群落	(工事の実施) ・建設機械の稼働 ・資材及び機械の運搬に用いる車両の運行 ・工事施工ヤード及び工事用道路の設置	対象種の生活史及び生育特性等に応じて設定	移植、播種等を施した保全対象種の環境保全措置の効果に不確実性がある場合、事後調査を実施する。	対象種の生育状況の確認	現地調査による確認
生態系	地域を特徴づける生態系	(工事の実施) ・建設機械の稼働 ・資材及び機械の運搬に用いる車両の運行 ・工事施工ヤード及び工事用道路の設置	工事中、工事完了後	保全対象種について、事業の実施による生息環境の変化の他に、環境保全措置の効果に不確実性がある場合、事後調査を実施する。	保全対象種の工事中の生息状況等の確認 保全対象種の工事完了後の生息状況等の確認	目視観察等による確認